

2006年6月に事業所の指定を受け、実働約1年半で45名の契約者に加え、月に10名弱の非契約者の利用。

昨年度はサービス提供責任者が実質一人でコーディネートとヘルパー業務をこなし、足りない部分を登録ヘルパー（実質4名）で対応し、ローテーションも非常に厳しいものであったが、07年度は常時支援に入れる女性ヘルパーが2名メンバーに加わり、また10月に実施したガイドヘルパー養成研修にて資格を取得した学生ヘルパーが支援に入ることができ、わずかずつではあるが配置としては正常な形に近づきつつある。ただし、いまだに利用希望者に比べヘルパー資格保持者が少なく、支援のコーディネートの難しさは変わらないので、引き続き市町村へヘルパーの資格要件の緩和を働きかけるとともに、地域への宣伝を十分に行ないヘルパー拡充をねらっていきたい。また、会計の状況としては、現在は月に平均50万円前後の利用料収入であるが、これを来年度中に月平均70万円にしていくとの目標を立てている。

1 施設運営

（1）実施事業

知的障害児・者居宅介護事業

知的障害児・者移動支援事業（各市町村の地域生活支援事業）

その他有料の預かり事業

※東京都障害者(児)移動支援従業者養成研修（ガイドヘルパー養成研修）

（2）利用者の処遇

ア 利用者数

総利用者数45名

イ 処遇方針

- ・個別援助計画に基づき、本人に合った形で余暇を充実させることができるようにする。

ウ 健康管理

- ・スタッフの日々の体調管理とともに、保護者、学校関係者、施設職員などと連絡を密にするようにする。
- ・利用者が利用している医療機関との連携を図り、薬の保持・服用については職員が管理する。
- ・急な発熱、怪我等、職員が病院に付き添う場合の体制を整備し、職員に周知徹底する。

エ 主な行事予定

- ・週末に実施しているお出かけデー等

オ 栄養管理

- ・支援で昼食をとる際は年齢・体格に応じ、栄養のバランスを考えたメニューを選択する。

カ 安全管理

- ・サービス提供責任者がウイングス名義の携帯電話を常に携帯し、事務所に不在のときにでも、転送されてきた電話やメールにて緊急時に必要な対応が出来るようにする。

（3）職員の処遇

ア 職員構成

代 表

1名

- | | |
|--------|----|
| 支援スタッフ | 3名 |
| パート職員 | 5名 |
- イ 健康管理
健康診断 年1回（ 8月～10月 ）
- ウ 職員会議
- ・ グループかがわ全体職員会 年3回
 - ・ ウイングス連絡会（施設長・サービス提供責任者・事務） 隔月開催
 - ・ ケース会・支援前打合せ（随時）
- エ 研修計画（研修費用）
- ・ ブロック内研修 年3回（3万円）
 - ・ 法人内研修（4万円）
 - ・ 外部研修（6万円）

2 施設管理

（1）設備関係

- ・ 老朽箇所や故障による修繕（随時）

（2）備品関係

- ・ 必要な生活備品や衛生備品は随時整備する。

（3）災害対策

- ・ 避難経路や消火器の設置場所など利用者とも確認し、非常時に対応できるようにする。
- ・ 災害時の対応を日ごろから利用者とも話し合っておく。

3 地域社会との連携

- ・ 近隣の大学等の機関にヘルパー募集のアプローチを行う。
- ・ バザーや町内会の行事に参加し、地域の方たちとの交流を深める。
- ・ 近隣の同系統の事業所（色えんぴつ・くじら雲・夕焼け子どもクラブ…等）との連携を深め、情報交換を積極的にしていく。特に色えんぴつ(滝乃川学園)は行動援護研修の実習受け入れをすることにより、相互の連携を深めている。